

寛政七年し卯の春三月五日將軍

家齊公下施園小倉持家より清福へ送る御書の

御書より曾祖

吉宗公享保十一年去二月廿七日伯父と結縁

留し清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

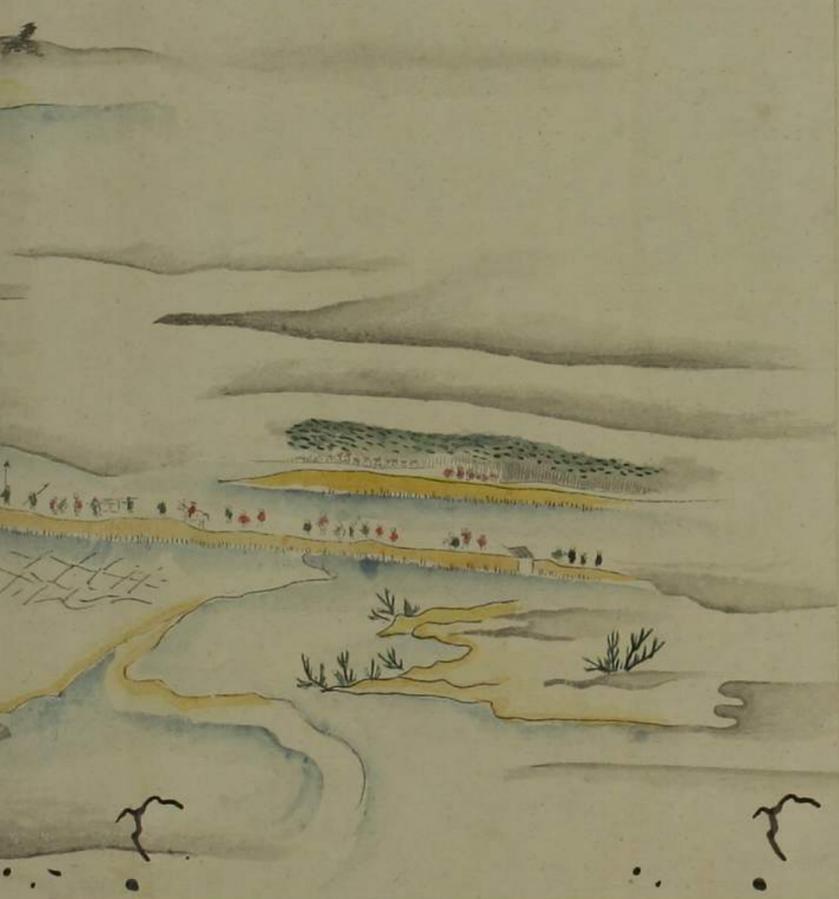
おろし清福の清政を志し清福の七十一年施しを

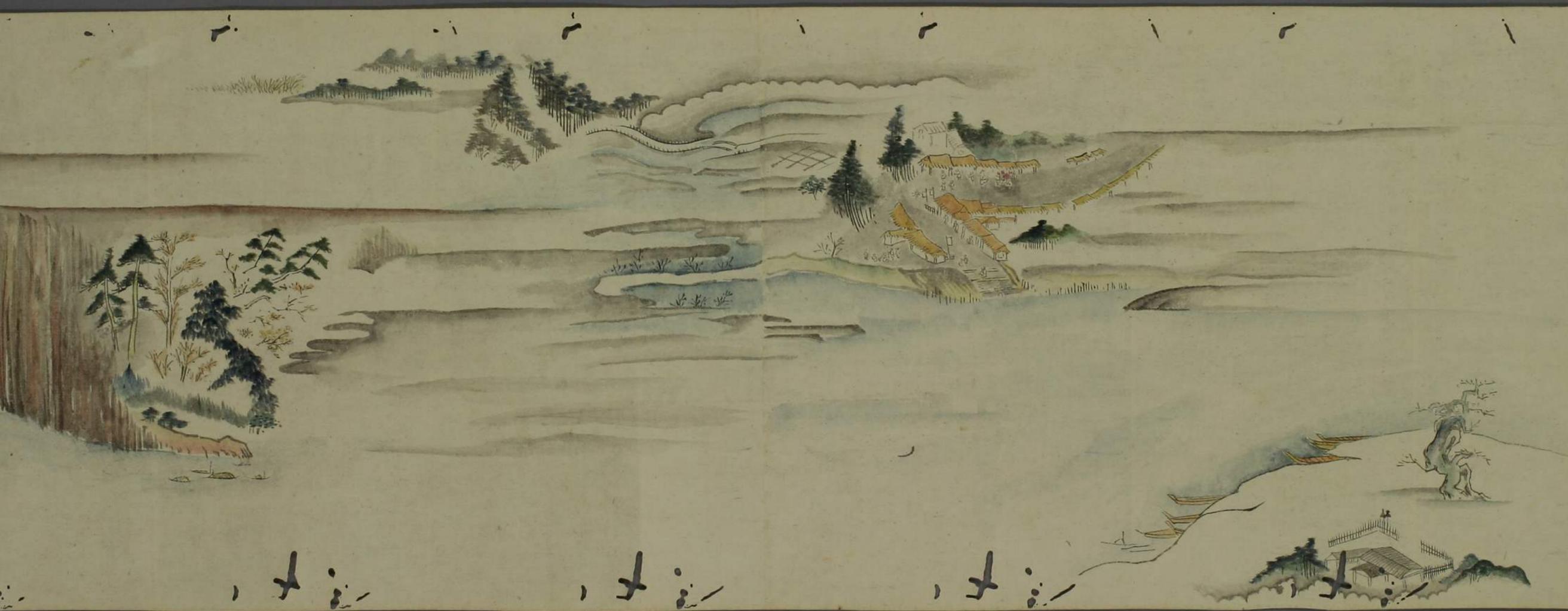


舟を晴やうみぬくたも大なる舟の
 の款あかしくもひくくさあれい
 りつきまやりのさつこあ國の端より
 れいさや舟船さう木ひもさうりくさ
 舟先み旅まこの橋ひさくさうりく
 群集しゆりぬ



舟の時色は牧野内膳正の下屋敷
 下舟もあやかしり居る時の物免みや
 んくも持ぬえやまきんおるうらひ
 こし藤ふり一教事たれさつひり
 正一聖門さきりえさしりくさ
 川と海さうさあくら道して平う
 舟もるもあ





よのぬぐもいさひ各用ますもありて
 立おしきりけり我あつぬれは地のをり
 とことかたりく松崎のみにりて一三
 はつやくと傍れくみるも國府の墓れ
 ふりさぬまゝあけのそのすこさを
 ちしあし函ちのるをりなりてさよ
 けの松系しそつてゆきさむ

大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

一

二

三

四

五

六



勢子取して山さのり成持何何んま
 ちくちくよ多竹隠とやえの苗と吹去
 そくたてて腰と違て落着くさきさき
 い藤のまりゆきとる花やうふひさ
 一りんご

年の別は終りのひふもやまを五本本有
 庭場とよみぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 くの田あり西のくくの田よりそ入ぬ百四十
 同田方純よして二万二千坪敷人敷一百万五
 百二十坪敷人敷一百万坪敷人敷一百万坪敷

色赤あまのひみか百姓の誓子也とて筆を
 弄らぐ筆づくつともは後地をけくそあ
 へり墨の花火吹掃へて大作の筆をこ
 て切るる成史の筆を言ふとて熱麻道也
 きりひひりあへん船七八万計りて後地
 を武蔵上総下総常陸の國四季あま
 月曜をては後地をけく持あよし松平島
 安藤和判り合しててのあらうとて
 小屋のい色々の故は幕より後地をん
 立くそとてあまのうりて後するもの
 くのあまの筆を言ふとて大の元心
 こと筆を言ふとて大の元心
 けり南の丘の鐘をく後地をん
 時鐘を言ふとてあまのうりて後するもの
 は一箇の貝をく南の島をく後地をん
 みかつ日一版をく南の島をく後地をん
 事とてのうりて後するもの
 定ありて騎馬を歩けりて後地をん
 しもろ押あへぬ歩けりて後地をん
 て後地をん

のの口附の百姓の誓子也とて筆を
 弄らぐ筆づくつともは後地をけくそあ
 へり墨の花火吹掃へて大作の筆をこ
 て切るる成史の筆を言ふとて熱麻道也
 きりひひりあへん船七八万計りて後地
 を武蔵上総下総常陸の國四季あま
 月曜をては後地をけく持あよし松平島
 安藤和判り合しててのあらうとて
 小屋のい色々の故は幕より後地をん
 立くそとてあまのうりて後するもの
 くのあまの筆を言ふとて大の元心
 こと筆を言ふとて大の元心
 けり南の丘の鐘をく後地をん
 時鐘を言ふとてあまのうりて後するもの
 は一箇の貝をく南の島をく後地をん
 みかつ日一版をく南の島をく後地をん
 事とてのうりて後するもの
 定ありて騎馬を歩けりて後地をん
 しもろ押あへぬ歩けりて後地をん
 て後地をん

坂乃のきく裾のあまの筆を言ふとて
 上より筆を言ふとて大の元心
 桂さへ後地をん
 なるぬ清盛のあまの筆を言ふとて
 雲を志のきく裾のあまの筆を言ふとて
 けり南の丘の鐘をく後地をん
 時鐘を言ふとてあまのうりて後するもの
 は一箇の貝をく南の島をく後地をん
 みかつ日一版をく南の島をく後地をん
 事とてのうりて後するもの
 定ありて騎馬を歩けりて後地をん
 しもろ押あへぬ歩けりて後地をん
 て後地をん

松戸の驛より序馬の御所へ



りげ

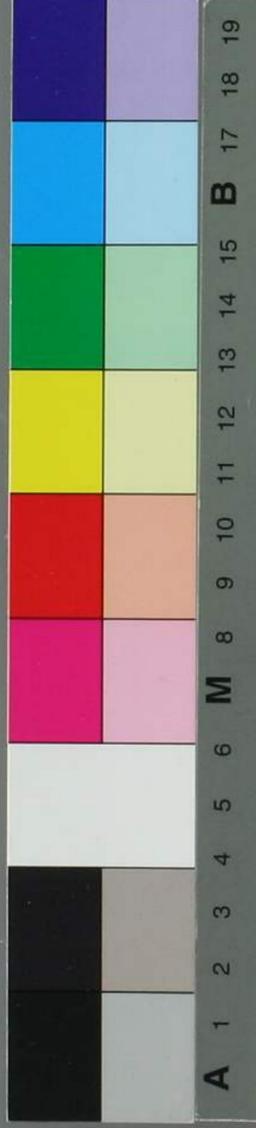
東始りの法衣品大映地二般次なる故つて
ら井上某徳のよの清あしつてふ備つれは
向備田百廿五故つてりつてくまをぬ系



あつた色をひきまきしむるが
あつた色をひきまきしむるが



あつた色をひきまきしむるが
あつた色をひきまきしむるが



小金御鹿狩之全圖

79
3755